



北スラウェシ日本人会
NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

Tarsius

タルシウス

第34号



雲をかぶったクラバット山（メナド富士） 撮影：中村

平成30年2月発行

目 次

01. 私に起きた 2017 年の“奇跡”？	大場 玲子	P. 02
02. ちょっと小話	木谷 雅一	P. 08
ちょっと小話 第2弾		P. 16
03. ギリ・トラワンガン島	江田 直美	P. 23
04. メナドを探しにマナドを訪ねて	井上 浩一	P. 26
05. 南洋真珠養殖その6（タリセ編）	今泉 宏	P. 31
06. ミナハサ事情について	編 集 部	P. 33
07. 編集後記		P. 42
08. 北スラウェシ日本人会会員名簿		P. 43

私に起きた 2017 年の“奇跡”？

大場 玲子

皆皆様、ご無沙汰しております。

私に起きた 2017 年の“奇跡”？ についてちょっと書いてみます。

幸運にも昨年秋、夫からイタリアでイタリア語を学ぶ短期留学を勧められ、それならばと即実行。

約 2 ヶ月間の留学後、意気揚々にインドネシアに帰国した際、事はおこりました。

懐かしい南国メナドの空港で待っていたドライバーの M さんがすぐに車を回し、荷物を取りに来てくれたので、

スーツケースの乗ったトローリーを指差して、

「急いでトイレに行ってくるから、これお願いね。」としっかり彼に荷物の指差し確認をしてからトイレへ。

その後すぐに車に乗り込み、順調にボートの待つ港に到着。

ボートに乗り、栈橋から荷物の積み込み作業を見ていて違和感を感じました。

全部で 3 つあるはずの荷物が、2 つ。アレっ？なんか足りないよ？！

きっと車の中に最後の荷物が残されているのだらうと、M さんに確認すると、

「いえ、これで全部です。」と言うではありませんか。

にやにい～ッ???? (何!? 激怒バージョン) !!!!!!!!!!!!!

そんなはずない！ もう 1 つ、あのもうひとつ… (何が足りないのか自分でもすぐ言

葉には出て来ず)

「あの大きな白い紙バッグがあったでしょ?! あれはどこよ??!!」

「いや、荷物は2つ、コレだけです。」と涼しい顔で応答する M さんに激怒の感情まで湧いて来ました。

もう錯乱状態です。

と言うのも、あの白い紙バックには、10 年くらい前に寒いスイスで高いお金出して買った(笑)コートと手放せないカシミアセーター、そしてシンガポールの空港で、頑張ってくれるスタッフ達の喜ぶ顔が見たくて買った、新品の時計のお土産達なども入っており、“白い紙袋”の手荷物が増えたのも、このお土産達を買ったからなのでした。

怒りと失望で頭の中が半狂乱でしたが、すぐに M さんに空港に戻ってもらい、探してもらおう指示を出しました。

このままだと電話で空港にいるドライバー仲間に電話をかけて、「荷物残ってないよね?」「ないよ。」と他人事でアツツサリ終わらせてしまいかねない、それでは私の気が済まないの、彼が実際に港を去るのを見届けました。

「積み込みよろしくね!」とちゃんと彼に確認して荷物を渡したのに?!

トランクを開けた車は、トローリーからわずか3、4メートル先の距離にいたのに?! 白くて大きな紙袋なんだから、それを見逃すなんて一体どうしてナノ?!

怒りで、M さんを責める言葉ばかりが頭に浮かびます。

夕暮れも近い港で涼をとっている人たちに罪はないのに、呑気に「何かあったの〜ん?」とこちらを見ている人たちがとても恨めしく思えました。

所詮“他人事”だよなあ、彼らにしちゃ。

“他人事”…

そこでラフの声が聞こえました。

「その荷物の持ち主はいったい誰なの??」と。

はい、アタシです。

ボートや車に乗ったら必ず全部自分のお荷物が乗ったか、確認してくださいねー、って普段からゲストに注意を促しているのもアタシです。

その注意を自分ではすっかり怠った、のも、アタシでした。

白い紙袋自体は大きかったけど、トロリー上の手提げ入れの中でクシャッと半分くらいに折れてたから、

見逃すこともあり得るよなあ、そうやって置いたのは自分だしなあ…。

コレって全部自分の責任やん… (´▽`;))

それなのに他人を責めていたなんて。

怒りのエネルギーがすう〜っと体から消えていくのを感じました。

そして急に「ホ・オポノポノ」を思い出したのです。

そういえば、これ、しばらく実行していなかったなあ…。

「ホ・オポノポノ」

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、

ネイティブ・ハワイアンに伝わる伝統的な問題解決技法のことです。

(インドネシアのティダッ・アパアパとは明確に違うと思いますが…笑)

この「ホ・オポノポノ」、日本ではあの船井総研の船井さんが「究極の人間正常化ノウハウ」と絶賛している方法だそうです。

私は九州のビジネス勉強仲間から初めてこの事を教えてもらうや否や、関連本を2冊、早速日本から取り寄せ読み始めました。

潜在意識の中の情報(過去の記憶)に感謝して愛することにより、その情報を消去すれば、起きていた問題は自然に解決される、
と言うものです。

その消去を可能にする方法と言うのが、4つの言葉、
『ごめんなさい』『許してください』『ありがとう』『愛してます』を日々繰り返す言
う、といった一見単純過ぎるような作業なのです。

本の到着前からネットでも少し調べて、それを時々実行していたのです。

本によれば、これは何も新しい考え方ではなく、般若心教の「色即是空、空即是空」
の考え方や、キリストのいう「汝の敵を愛しなさい」と言った考えと同じもの、との
こと。何か納得がいくし、ハワイアンの伝統とはいえ、私には現代バージョン的な解
釈、にも思え、身近で賛同しやすかったので始めて見ることにしたのです。

私もまだ完全に本を読み終えたわけじゃないので、詳しい話はここでは書きません
が、興味のある方は本を読まれると良いかもしれません。

(希望があればメナド日本人会の方には貸し出し可能です)

・・・話を港に戻します。

失望感の中、この事が急に頭によぎり、そこからは反省の嵐。

肌寒い時にいつも私を守ってくれたお気に入りのセーターやコートを大切にしな
かった、感謝の気持ちが足りなかった事、

頑張ってくれているスタッフの笑顔を思い浮かべ、彼らにお土産を渡したい、なの
に自分の不注意で紛失してしまった事などに対して、

『ごめんなさい』・『許して下さい』・『愛してます』・『ありがとう』
を繰り返しました。「お願いだから私のもとに帰って来て！」とも。

困った時の神頼みさながら、この4つの言葉を繰り返し言い続けました。ボートに
いたスタッフたちは、ブツブツ独り言を繰り返す私を見て、「この女ついに気がふれ
やがった」とでも思ったかもしれません。

ただ、どう考えても無キズで出てくるとは到底思えない状況でした。

空港内の到着口の荷物カウンターで荷物を取り忘れたわけではなく、既に空港の外、
観光客や大勢の口々（地元民）が入り混じる、送迎車やタクシーの出入りが激しい場

所に置き忘れられた、真新しい紙袋。しかも立派なお土産入り。透明な贈答ケースに入った時計は、誰が見ても新品であることは一目瞭然。

スーツケースと違い、ネームタグやフライト番号の札がついてるわけでもありません。誰が見つけても、「ラッキー！な”福袋”」という言葉が頭に浮かびました。

暗くなって来たので、さすがにそのまま待つわけにもいかず、仕方なく家路につくことに。

家に向かうボートの中で、この4つの言葉を繰り返し言い続けました。

そのせいか気持ちが少し静まり、自分の責任、諦めも肝心、と思うと気が楽になり、「まあ、誰かがそれでハッピーになってるんだらうな。」「何かを失くす、ということとは新しい次の何かを得る時」とポジティブな事を自分に言い聞かせたりして…。

夕食前に1本の電話が来ました。。

「袋が出て来た、ありましたよ」の報告でした。

先の気持ちとは相反するので不思議ですが、…

心の奥底では出て来るような予感もしていました…（笑

でもきっと流石にお土産なんかは無いかもな、と思っていたんですけど。

翌日チャーターボートで届いた紙袋の中身は、『手付かず』、でした。

新品の時計他全てのお土産、私の愛着のある服達が1点も欠けずに入っていました。

ここでまた先の4つの言葉を何度も繰り返したのは言うまでもありません。

どなたかはわかりませんが、荷物を届けてくれた心ある人にも、感謝の気持ちを心で送りました。

ゲストのお荷物を忘れられては困るので、ラフから厳重注意を受けたドライバーMさんも、もちろん、冷や汗かいて猛烈に反省してたそうですが、彼にも4つの言葉で感謝、責めてしまったことに対して「ごめんなさい」を心の中で繰り返しました。

ここ数年、日本の実家でも、犬の散歩を装って見知らぬ人が門内に勝手に入っていたり、軒先に置いている小物でも、気がつくともなくなっていたりする事が結構あるそうで、安全と言われていた日本でだって最近はどうかわからないのに、この異国の地で、あの“福袋”がまともに戻って来るなんて???!!

たまたま、偶然?と言われる方もいるかもしれませんが、私にとって今回の事は、「ホ・オポノポノ」の4つの言葉が運んでくれた“奇跡” と思えて仕方ありません。もちろんあの空港にも、そんな心ある人がいた事にとても感謝しています。

新年もこの4つの言葉を日々繰り返し、感謝の気持ちビームを常に発していきたいと思えます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ちよつと小話

木谷 雅一

皆さんこんにちは。

マナド地域ではまだまだひよっこの在マナド地区 5 年が過ぎた Kitani です。

この会報への投稿は移住(?)してきたばかりの頃のご挨拶以来かと思えます。

今回は思いつくままに書きますので、急に話がどこかに飛んで行っても気にしないでください。(笑) また、内容についてご存知の方もいるかと思えますが、読み流してくださいね。(クレームは聞き流します)

最近気を付けてやっていることといえば、なるべく日本語を聞くように心がけています。あまりその内容にまではこだわっていないので、TV 番組では衛星放送を契約している場合だいたい追加料金なしで視聴できる WakuWaku Japan というものが映るのであればそのチャンネルを流し続け、車内 BGM も自分で準備した日本語の曲のものを聞くようにしています。

何年か前、ちょうどここマナドに滞在し始めた頃かもしれませんが、私自身で自分の言葉がおかしくなっていると気付いたのがきっかけです。(それ以前に滞在していた NTB 州では、TV 番組を含めほとんど日本語と接しない期間が長かったので。) おかしい??どんなふう to ??ということですが...

なんというんでしょう、インドネシア語と日本語の入り乱れはもちろん、自分でどっちの言葉を今しゃべっているのか気づいてないというものです。しまいには、その各国の言葉自体も語順がハチャメチャ・・単語の入れ替わり・・・以前は日本語で思いついた内容をインドネシア語に一生懸命変換して会話していたようですが、最近はその頭の中のその薄っぺらい日本語インドネシア語辞書なるものが消えてしまったようです。まあ、ここではインドネシア語が出ないよう心がけますが(笑)

初めてインドネシアに行くときには、日本の書店で買ったインドネシア語辞典(大学書林)を片手に(?)「ありがとう」というインドネシア語だけを覚え、その言葉を胸

に意気揚々とこの国に到着したのを つい昨日のこのように覚えています(本当に?)。(まずどこに行ったかは覚えてませんが・・)

高校生ぐらいを過ぎる頃、「辞書について手垢でどれだけ勉強しているかわかる!と聞いたことがあります 簡単でしたね・・・手垢なんて手を洗わないで辞書触ればすぐに茶黒くなっていかにも「勤勉です!!」風に見えますね。というより、会話しながらわからないときに辞書を使うじゃないですか・・・いちいち手を洗いに行かないですよ。。相手に失礼です(笑)今では電子辞書や私もたまに使っている携帯電話の翻訳アプリで済む話です。長々と昔話をしてしまいましたね・・・とほほ・・

まあ、長期間接しないと母国語でも忘れてしまう危険性がある・・・ということです。皆さんも気をつけてお過ごしください。

小話ですから、テーマなるものはありません。だらだら書きながら勝手に区切っただけの2つ目のお話し。。

私はまだこちらインドネシアで仕事をしています。

用事がある度に点々と場所を移動するので、外回りの時はあの煌々とそびえ立つとても立派なマナドの空港から飛び立ちます。当地にいるときはマナドの隣町(間に小さいのがありますが)のビトゥン市まで通っています。まあ~Bitung という表記ですから、日本語でビトゥンなのかビトンなのか・・・ご自由に・・・と私は思っています。できればビトンの方がキーボード操作は楽ですよ(笑)現地の人々の発音では、「ビトゥン!」と私の耳では聞こえています。Bi と tu が強くて後ろは消えていく感じです。。

マナドからこのビトゥンに行く方向には山があります。。特に空港から行くとわかりやすいのですが(飛行機の離着陸に影響がでる距離にある山なので)クラバト山(1995 スラウェシ島では最高峰の火山←Google マップより がそびえ立っています。ビトゥン富士?マナド富士?ミナハサ富士??

まあ~そんな「富士山は山梨か静岡か!」のような奪い合いには巻き込まれたくはないですが、小さな富士山といった感じで日本人の私は眺めていてホッとできる山ですね。そして、私の当地の仕事場はビトゥン市でもまだ東(マナドから離れる)のレンベ島付近です。

江戸時代末期に噴火したと記録のあるタンココ山率いるタンココ国立公園付近です。その噴火の時にタルシウス(小さなお猿さん)達は怖かったでしょうね~タンココ山の中で逃げきってくれましたね~~。

まあ、そんな地理的なお話は皆さんお手持ちの地図を見て感じてください。これ以上文字にする気がなくなってきました。空港→JL.SBY で air madili 付近まで→Jl.Likpang でタテルまで、Jl.タテルーBitung の山道を使って Bitung 市のギリアンまで走ると、この二つの山を順に見ながら走ることができます。道は覚悟しておいてくださいね。

この双子の山とも呼ばれるタンココ山については、今回はついでに・・・書いたのですが、前述のクラバト山です。私にとって問題なのは。

この山、余程の快晴じゃないかぎり、必ずと言っていいほど雲をつくる山。海からの風が山にあたって・・・という理科のようなことも書きません。(笑)

この地域的な雲は風の強さ、向きによって、この時期はマナド(空港)方向へ、ある時期はビトゥン方向へ、またまた、風が弱いとその麓付近の地域で雨です。かつよく言うとスコールです。

マナドービトゥン間を行き来している人には、とても迷惑な話なんですネ。

バイクの方は合羽が必需品。さすがに車なんて洗う気がなくなってきました。

もちろん、雨季になるとそんなちっぽけなエリアでの雨だけではなく もっと広い地域での雨になるのですが。

雨まで頻繁に降らしてくれるクラバト山。でも快晴の時は北ミナハサ県側 Jln.SBY から見てもビトゥン市内から見ても、心癒される山ですよ~

ただ運転者は道の凸凹に集中していてゆっくり見れないかも・・・ですが。

インドネシアで車の管理をしているのですか?と聞かれたら Yes です。

日本でも車には乗っていたので少しインドネシアでの事情(もちろんマナド地域)について 2 の話の中で凸凹道と書きましたが、これはマナド地域に関わらずインドネシア国内どこでも道の舗装状態の悪さは悩みですね。気温が高くアスファルトが柔らかいというのもあるかもしれませんが、そんな表面がざらつくというレベルの問題ではありません。いきなり現れる深さ 20cm 以上の陥没穴。これ、大変危ないですよ。

重量のあるトラックのタイヤがアスファルトの表面を持っていくというのももちろんありますが、ほとんどは下の地盤が沈下や雨水で流れてしまったことによる陥没穴です。各地域 彼らなりの急ピッチで側溝設置工事を進めています、まあ~間に合いませんね。そもそも側溝より下側の水の流れもあるのですから。

土木建設工事についての詳しいお話は、別の場所を検索していただくとして(私も素人なので)、このような道路事情は車の維持費用にも影響してきます。

年中気温が高いので、タイヤの減り方は日本の約倍速です。2万キロぐらいで駆動輪はちびってきます。上記凸凹道の影響で足まわりもすぐにやられてしまいます。サスペンション部ですね。タイヤ部分からの前後左右上下の揺れをなんとか抑えましょう・・・という部分です。

ジャカルタの町中だけ使用の方からは45万キロぐらいでこのサスペンション部分を交換したと聞いたこともあります、マナドとビトゥン間を主に走る私は3万キロ(1年半)ぐらいでカタカタと音がしてきます。

このようなものも日本に比べれば物価の安いインドネシアだから・・・というようになってくればとてもありがたいのですが、純正品を買うとまあ~部品代は日本車なら日本とほぼ同じです。工賃はちがいますけどね・・・

車の話のついでに・・・

インドネシアと日本との交通ルールの違いは・・・交通マナーではないですからね(笑)インドネシアでは基本的に町中 40km、郊外 60km と速度が一応決められています。免許取得時にちゃんとお勉強した方は知っているはずですよ。

混んでいない道では いかにも速度自由~というようにかつとび屋さんの多いインドネシアですが、一応決まっています。警察による速度超過の取り締まりなんて見たことないですが・・・

また、右折優先です。十字路の交差点で直進する車がハザードランプを点滅させて進んでいるのをよく見ますが、直進するその車と対向する右折車の衝突 お互い右折するかな?の間違い)。直進車と左側からの車との衝突 あなた左折するでしょう?の間違い)をあえて招こうとしているようにしか感じていません。

免許持ちの真面目なインドネシア人に聞いてみましたが、そのようにしないとイケ

ないということはないようですみんなやってるから・・・だそうです。

日本でも「譲ってもらってありがとう」のサインは後続車に非常点滅等 2 回ぐらいというのがありますよね。

まあ~ハザードランプ点滅させて、緊急車両やお偉いさんの車の真似をして、「どけどけ!俺の車が通るぞ~」と優先度を示しているのかもしれないね~。ありえます。。。(笑) また、接触事故などの場合、「こっちが先に交差点内に入っていた!」「先に指示器を出して意思表示していた」などを理由に優先度を示して、事故の弁償問題で勝とうとすることが当たり前のようになっています。右折優先などどこへやら・・

ちなみに、交差点や路上駐車(とても多い)などの障害物がある場合など、相手の進路側の道に入らずに(邪魔をしないで)手前でじっと道を譲ってくれるのを待っているとたぶんそこで日が暮れますよ。いやいや後ろから早く行け!のクラクションが鳴ります。じわじわと相手側や交差点内部へ侵入して行って 先にこの場所に入った!だから私が通る!と勝ち誇る。そんな勇気もいるのかもしれないね。道路横断には犬・山羊・牛・鶏たちも勇気を出しているのですからね・・・(??)

マナドに限らずどこにいても、くれぐれも交通問題にはお気をつけください。自己中が多いですから・・・ちなみに、警察や軍の服や帽子、NTB 州に居たときはイスラム教徒がメッカを巡礼したという証に(インドネシアでは Haji 被る白い帽子をちらつかせると、交通の優先度はあがりますよ(笑)。マナド地域では何かな~?やっぱり他地域より多発するハザードランプでしょう~(笑)

私のインドネシア滞在の中で今だに一番の長期間を占めているのが西パプア州ラジャアンパット(Raja ampat)県です。在マナド期間が私の一番となるまではまだしばらくかかりそうです。

その地域は昔から滞在している邦人の少なさで、公式な日本人会というものはありません(ソロン地区)。「連絡窓口を誰かが担当している」ぐらいですね。

でも、だいたい同じ地域に滞在していますから、町に行った時には滞在している方に時々会いにいってました。

2006 年頃の政府の地域独立制度のようなものによって、以前のイリアンジャヤ州

が複数の州にわかれ、以前の県や市がまた新たな県と分裂し・・・という「公務員(地元民族も)いっぱい雇うよ! 制度の時(あくまでも私的な書き込みです)イリアンジャヤ州ソロン県(市)からいつの間にやら、西パプア州ラジャアンパット県に住所が変わってしまったのですね。一時は国の名前もパプアになる?という時期もありましたが・・・

さて当時 Mr.マックスがラジャアンパットでのダイビングをメディアに紹介して以来、ラジャアンパット県は日本では「最後の秘境」という名前をいただき(見たのは文春だったかな?ダイビング雑誌かな?)、歩くサメ、ブラックマンタまたまた新種発見など、まずはダイバーの世界で急ピッチに盛り上がりました。

日本の俳優さんも来て撮影していったし、世界ふしぎ発見にもでました。

そんなラジャアンパットの盛り上がりは今も続いています。

どうしてもダイビングでの滞在となると、滞在費 1 日 3 万円から旅費含むと計 40 50 万円かかるから高い〜〜というのが難点だと聞いています...

昨今、世界的な飛行機の子チケット代金下落競争の勢いを受け、ラジャアンパットへ向かうチケット料金も以前の半額ぐらいまで下がる可能性があります。

今までなんでそんなに高かったの?と傲慢な会社経営を疑いたくもなる価格の下落ですが。聞いているところでは、首都ジャカルタからラジャアンパットへの窓口となるソロン市の空港まで直行便で片道 1 万円を少し超える程度であります。

直行便 4 時間弱のフライトでこの価格。すごい安いですよ〜〜。

当地マナドの空港からは、現在ソロへの直行便が 3 社から毎日飛んでいます。だいたい早朝出発で帰りは夕方マナド着です。

これは、ソロン(パプア)の飛行場のスケジュールの問題からです。まず、いまだに滑走路にランプ(誘導灯)をつけたことがないソロンの空港。空港の離着陸営業時間は日の出から日没です。これに合わせて、現在ジャカルタからは深夜発の夜行便でソロンに向かうこととなります。(再度言いますがジャヤプラを含めパプア行はほぼその時間帯)日本からバリ島到着でソロンに向かう場合は、バリ島を夜出る飛行機でマカッサルに向かい深夜までその空港で待機。そしてジャカルタからソロンに向かう飛行

機に深夜(?)早朝 4 時頃に搭乗となるはずです。

朝にソロン着。機体は少しビヤックやマヌクワリ、ティミカ、ジャヤプラなどパプア内をまわり、再びソロンに飛行機が帰ってくるのがお昼前後。それからジャカルタなどパプアより西に向かって帰っていくという機体の使い方をしています。空港にいる各社の従業員も早朝から昼過ぎまでのお仕事のみになりますね。。。

マナド→ソロン間のチケット料金は片道 4 千円から 1 万円。その中間あたりがよくある価格です。フライト時間 90 分。早朝の 4 時から 4 時半頃にマナドの空港でチェックインし、朝の 8 時半にはソロンの空港にいることになります。(東部時間の+1 時間)ラジャアンパットの県庁があるワイサイへ向かうには、ソロンから水産大臣が経営するプロペラ機か LION グループのプロペラ機がお昼過ぎに飛びますが、ほとんどの方は、ソロンの港から高速船で 2 時間かけて向かいます。

朝の出向時間は午前 9 時。空港から直行すればなんとかのれます。だいたい遅れて出発してますが。お昼の船便は 2 時です。これ、最近は毎日 2 便出ていますね~。

エコノミークラスで 11 万ルピア、VIP で 22 万ルピア(エアコンガンガン+カラオケの爆音量+お菓子つき+使えるトイレ付き)順調にいけば、お昼の 12 時頃ワイサイにいます。

そこから先は、皆さんそれぞれの目的とするリゾート(宿泊先)のある島へお迎いの船で向かうか、ワイサイの町中のホテル滞在となります。

今年 2017 年の 1 月下旬、ワイサイの空港の滑走路延長に伴い Wings エアーのプロペラ機がマナド→ワイサイ→ソロンというフライトをやってくれました。私も何度かこの恩恵を受けて、午前 11 時にはワイサイの町でまったり~していたのですが、半年の試験フライトが終わり、7 月下旬にこのスケジュールは元のマナド→ソロンとなくなってしまいました。

しかし、ソロン→ワイサイの往復フライトはいまだにこの飛行機会社が飛んでいます。まあ~ソロンからワイサイへは、地元人の往復の移動やソロンからジャカルタなどへ向かう人たちでやや混んでいます。ワイサイ→マナドなんて、ひどいときは搭乗者私一人でソロンからのお客をいれても総客数 3 人だったこともありますから・・・

こんな感じで、マナドから人気のラジャアンパットの県庁所在地ワイサイまで向かうことができます。問題はこのあとなんですがね・・・(笑)。

ものすごく県庁の管轄地域が広いラジャアンパット県。さあ~ワイサイから船でどこ行くの??ですよ・・・ちなみに私のいつもの目的地は船の状態にもよりますが、ここから120分~150分かかります。現地到着は夕方ですね・・・

今回はラジャアンパットに行くにはどれぐらいの費用と時間がかかるのか・・・というものについてのみ書いてみました。

マナドまで来たのなら、ジャカルタやバリ島からより、それほどお金のかかる場所でもないラジャアンパット。ぜひ、へき地へ行ったぞ!!と自慢できる(かと思います)ので、一度は行ってみてください。

ワイサイの町に泊まって、マナドからブナケン島に行くように、近くの島(マンスワール島など)に日帰りで行くこともできます。船のチャーター料金は人数割になるので、人数がいれば安くなりますから・・・(1時間で20リッター エンジン台数)簡単には、2つのエンジンを付けたスピードボートではドラム缶一缶で5時間走ります。1缶200万ルピア(1.8万円)ぐらい)運が良ければ、船の上から、イルカ、ウミガメの泳ぐ姿。飛びエイ、鱈のジャンプ。ソーダカツオの群れを見ることができますし、とっても幸運に恵まれれば、バショウカジキ、クジラ、ジュゴンを見ることができかも・・・飛びイカを船の前方でトビウオの飛び立つ中から見つけられたら宝くじに当たったような確率のラッキーな方ですね。(笑)

私が滞在するところの船の棧橋付近では、クマノミとミノカサゴが住み着いていますし、そしてどこにでもいる鉄砲ウオやトビハゼ、ゴンズイ、オヤピッチャが出迎えてくれますよ。

先に言うておきます。。。行っても素晴らしく観光地化されていることはまずないので、自然の多い田舎町にきたなあ~と実感できる。これは確かだと思います・・・海に潜る人は得られるものは大きいと思いますけどね。

長々とだらだらと書いてしまいました。また、だらだらと書くことがあるかもしれませんが、その時はよろしく願いいたします。

同じネタ書いてたりして・・・(笑)・・・・・・・・・・・・・・・・・・終・・・

ちよつと小話 第2弾

木谷 雅一

皆さんこんにちは。前回に引き続き Kitani です。
2018年 あけましておめでとうございます。

締切までもう少し時間があるということなので、追加分を新年早々だらだらと書きたいと思います。

1：雨季に入っているインドネシア。

タイとはご近所なのに季節が逆だという不思議な点もあるのですが、雨が降るので間違っはけません。マレー半島に近いスマトラ島はどうなのかな??

フルーツの季節到来ですよ～。マンゴ～ドリアン～マンゴスチン・・・楽しい時期がきましたね。観光や家の修理には、雨が降るので嫌な季節ですが、そんな時は雨宿りがてらフルーツを食べてストレス解消ですね（笑）

地元の食べ物では、どうしても野菜不足かと思います。フルーツ食べないと血液ドロドロのようで気持ち悪い気分になりますね。あくまでもイメージですからね・・・
血液が本当にドロドロかどうかの確認はしていませんが・・・

海でも魚の季節が始まっています。ラジャアンパットでは乾季の季節はかなり釣果率が下がるのですが、今ならどんどん釣れるでしょうね・・・

まだ確認していませんが、通常イワシやアジの稚魚のサイズが、この時期ちょうど骨ごと食べられる小さいサイズ。サビキで釣って南蛮漬けや素揚げで・・・

という時期かと思います。場所にもよりますがね。

天気は悪いけど、楽しい季節でもあります。

ただ、海は北からのうねりの大きい時期になります。たまに来る西風も突風を運ん

でくることもありますし・・・

インドネシア国内の NEWS でも、小型船の転覆 NEWS が出てくる季節ですね。

地元では、2 月頃の旧正月までこの悪天候は続くと言います。「悪天候だから漁に出ないで、丘でフルーツでも食べよう！」そんな時期ですね。(笑)

乾季は釣れないから漁にでない。次の北の季節はうねりと雨で漁に出ない。。じゃ〜〜〜いつ漁に出るんだ?? という話が聞こえたとしても、聞き流しましょうね〜。

実は私は滞在していた地域によって、いろんな季節の呼び名を聞いたことがあります。(魚の名前も場所によって違うので、覚える気はありません←日本でもですよ。私はバハサ カンプン (地域言葉) は覚えられない! と勝手に決めています)

基本的にはどこでも雨季と乾季なんですが、風の向きで季節を表現する地域があります。南 (南東) 風の季節、西風、北風→東はあまり生活に影響しないのでとばされますね (笑)

1 年で 1 周まわってきます。

また、ある地域では (乾季、ネズミ、八工、赤蟻、コオロギ) という、やけに雨季の始まる 10 月から 2 月にかけて、ころころと季節の呼び名を変えて、あとは長い乾季〜というところもあります。

各地域の方々と話していると、たまに楽しい発想に出会うことがあります。もちろん、雨が降って水量が多い時期は、蚊が多いですよ。

そうだった・・・マナドでも赤蟻 (小さい赤茶色) はいますが、私はあまり被害を感じる事が少ないです。ひどいところだと、寝ているときに枕元をうろろうろされて、彼らが歩きながら押し付けるあのフェロモンというのでしょうか、ものすごく痛痒いですよね。。なかなかぐっすり寝れないです・・・

2 : なかなか寝れない経験と言ったら...

私には忘れたくても、もう〜嫌だ! というところまで我慢して、なんとか現地に滞在しない方法を思考し続け、ある時には、こっそりとレンタカーで抜け出し、近くの道端でその車内で寝た経験もあるという、なかなか寝付けぬ滞在経験があります。(寝付けるかどうかは、個人差がありますからね。)

その人生経験をさせていただいたのは、バリ島（バリ州）の東隣にある NTB 州でのこと。NTB の州都はバリに近いロンボク島ですが、そのまた東隣にあるスンバワ島の、それまた、一番東側にあるサペという町に滞在していた時のことです。

ご存知の方もいるかと思いますが、陸路と隣の島までの連絡船をつかって、ジャカルタから長距離バスがこのスンバワ島の北東にあるビマという町まで来ています。

そのビマから 60 kmほど南に下ると、その東側にあるフローレス島（ラブハン バジヨ）に向かう船の棧橋がある町というサペ。有名なコモドラゴンのいるコモド島やリンチャ島を通過してラブハン バジヨの町の棧橋に船は向かいます。

サペに限らず、この NTB 州なんです、各島の陸地を東に行くほど雨量の少ない乾燥地帯。また、この東スンバワ地域は北から南に行くほど乾燥します（だいたい中央に山があるので、その南側となります）。←バリ・ロンボク島は北側が乾燥してますね。

実際、私もサペの東隣の島の町（ラブハン バジヨ）に行ったことがありますが、サペのチョコチップビスケットのような山肌と違って、ビマと同じく比較的緑の多い町ですよ。というサペ（上記個人的感情がありますので、いい場所だとは書かないと思いますが）の町です。

この町も海岸地域ではよくある、ブギス民族の住み着いている地域。ビマから北に行けば南スラウェシ州ですしね。

そう！ブギス民族＝南スラウェシ州の海洋民族。

あのインドネシアのお土産屋さんで、木彫りや銀細工で売っているピニシ船を伝統木造帆船としている民族ですね。悪く言えば、昔の海賊の民族です。

この民族の住居は、海岸線沿って住むことを考え、高床式の木造建築です。だいたい奥行きのある長方形で、2階部分の正面が階段のついた玄関となっています。

海岸線で建てれば、満潮の時は家の下は海です。

しかし、丘に建てればちょっとした空きスペースですよ。

倉庫ぐらいに使ってくれれば滞在するのにこんな苦い経験をする事はなかったと思いますが、近隣の村人たちは、家の下に鶏、山羊、牛、など家畜の場所としてい

る家が目立ちます。

私が滞在した家も、このスペースには鶏が飼われていました。住居スペースの真下になります。ついでに、タイなどでは食材として有名(?) なちょっと大きめのトッケイ(トッケイヤモリ)(←お隣のP国ではトッコウと呼ぶと聞いたこともあります)がその家に放し飼いにされていました。そこらの木で見つけて家に放したもの(私ではない)ですが、まあ~「売れるから」ということで飼われていました。

トッケイさんは、そんなにいろんな所を広くうろつかないので、家に放せば、まあ~その家の中にいます。

だらだら、まとまりなく書きましたが、これで、思い出の場所とその原因の一部が出揃いました。だいたいお気づきでしょうか・・・寝れない原因が・・・

晩御飯を食べ、何もすることがないので、健康的な消灯時間で寢床に入ります。22時くらいですかね。電灯が消えて暗くなった家では、しばらくすると、これは地域に限らないと思いますが、晩御飯の匂いでスタンバイしていたネズミさんたちが部屋の天井を走り抜けてたり、台所でがつつバタバタ、時には壁掛けの鍋を落としてくれてガッシャーんという、ちょっとした運動会が始まります。

これも慣れれば「あ~なんだネズミか・・・」ということで「さて寝よう!」となるのですが、例えば寝る時、手にお菓子屋やご飯の屑や匂いが残っていたら、運悪くがぶりとネズミに試し噛みされることもあります。

また、体の上をちょっと失礼~とばかりに走り抜けてくれることも経験しました。

何かの本か映画で知った、戦時中、捕まえた捕虜を洞窟に収容していた話の内容を思い出すきっかけにもなりましたね。(ちょっとここでは書くのを遠慮します)

まあ~気持ちしだい!という心構えをして寝てみたり、最終的には睡魔には勝てません。引き続き寝ることに集中。。

どれぐらい時間が経つのか、何時頃なのか?そんなことはわかりませんが、だいたい次にくるのは、バリ島で聞いたことのある都市伝説「トッケイが7回鳴くのを聞いたら幸せになる」という「トツツケ~イ」という鳴き声が始まります。

運が悪いと自分のいる部屋の中で鳴いてくれます。

目が覚めてしまったら、ついつい数えてしまいますよね。1っかいめ〜〜〜2かいめ〜〜〜3かいめ〜〜〜

このトッケイさん。ちゃんと鳴きのメ方があるのですよね・・・

「トッケイ！！」と張り切って数回鳴いていたものが最後は語尾が弱弱しくフェードアウトしてくれます。それで鳴きの終わりです。チチャのチチャチャチャ・・・とは比較にならない音量ですけどね。

また、この都市伝説。。私が数えた限りでは、多くても5回だったように思います。やはり7回「トッケイ！」と鳴くのを聞くと幸せになれるかも・・・ですね。

そんなことを寢床でして、気を失いかけた頃にだいたい部屋の下から・・・

バサバサッと羽をバサバサさせる音が聞こえてきます。

ノミもいるニワトリさん。乾燥してしまった鶏糞がまき散らされる心配も含めて、あまりいい気分ではないですよね。。自分の寢床の下でやられると・・・それも床板は節の穴があったり、しっかりと成りの板とくっついていない、隙間だらけなので・・・

そして、お待ちかねの・・・コケコッコ〜の始まりです。インドネシアですから、くっくどうりゅ〜（??）ですかね・・・これのだいたいの時間は朝3~4時頃と推測しますが、NTB州はイスラム教徒主体の地域。そこらにモスクがあります。

はい、そうです。・・・最後は朝5時以降に始まる早朝の祈りの呼びかけが、モスクから流れてきます・・・

この夜の環境に何日耐えられますか??

私は、よほど疲れるか、かなりの睡眠不足状態にならないと、消灯から日の出のほしい朝6時ころまで、ぐっすり眠ることができませんでした。

滞在期間が長くなるほど、いつも睡眠不足状態のようで自分の体が徐々に弱ってくるような感じを受けていました。

まさしく、投獄された気分でしたね。(投獄された経験はないので、憶測ですが)

現地に住む方々には申し訳ないですが、一応滞在目的があったのでそれが終わるまでは！と頑張りましたが、プライベートでは泊まりたくない環境です。

その他に、この地域の環境が乾燥地帯で砂埃が多いということ、気晴らしに出かけ

る場所や贅沢な料理を提供してくれる所が近くにないこと・・・これらも大いに私の感情に影響しています。サペに KFC はまだありません。

ある方は、週末サペから「ラブハン バジヨ」まで船で出かけて行って、バジヨの海岸沿いにある焼き魚や KFC を堪能して帰ってきたり、私は 60 km 離れたビマの町まで行って、ある程度の大きさの町ならどこにでもある KFC の鶏肉食べて（鳥が食べたいのではなく、完全な現実逃避）戻ったり・・・

うん??

もっと他にいい場所何かあった?? というレベルですよ。あの地域では・・・(失礼) 何度か訪れた拳句、最終的にはビマに寝泊まりして、レンタカーで毎日片道 60 km を用事のために通う手段を選んだのですが・・・もちろん毎晩 KFC ですよ～～

ここまで書いたら、ついでに出し尽くしましょう・・・私の愚痴を・・・

乾燥地帯だから?? Why?

はい!・・・いつも砂埃まみれです。部屋も、服も。眼鏡使用の私は眼鏡のレンズも・・・ひどいときはご飯を食べていても、なんやら砂の味が混じることがあります。(他の乾燥地帯も同じでしょうが・・・)

洗濯用の洗剤はあのメーカーが良い! この柔軟剤の香りがいい!・・・だって?

洗濯しても干して乾燥させた後、そのまま水につけると、水は薄茶色になることも・・・香り?? 砂埃の香りが一番です・・・(笑)

唯一の救いは、地下に一応水脈があって、井戸水は出る。ことですな。

これで井戸が枯れていたらもっと最悪な気分にな・・・あの海水で水浴びするバサバサ感が追加されてしまいますよね～。

唇はもちろんカサカサで酷いと割れてきます。

カカトなど乾燥したときは割れたりしますよね・・・私は乾燥で腕の皮膚の表面の皺が浮き出て鱗みたいに見えてましたよ。爪は乾燥なのか栄養なのか? たて皺が入った状態になっていきます。(なかなかの自分の体を観察しているでしょう? 健康には

気を使っていたので。)

もちろん、毎日数回水浴びしてますし、水も気を付けてがぶがぶ飲んでました（空腹を忘れるためにも）。個人的に一番効果があったと今もおもっているのが、3in1のあの甘ったるい粉末珈琲の混ぜ合わせ（サセット）を飲んでいました。

干し小魚の素揚げ、目玉焼き、上等ではない白米、たまにタマリンドを使った鶏肉（魚）のスープ仕込みやから揚げ。追記）油はもちろンドロドロのマグマのような状態がよく見れました（泣）

その連続の日々。。夜の極楽な寝床・・・あの飲み続ければ糖尿病になりそうな珈琲の糖分を体内で燃やして耐え抜いた！　そう勝手に思い込んでいます。

う～～～書きながら・・・思い出してしまった。。辛かった日々。。

平日の朝から夕方まではそこで仕事があったので・・・

唯一、インドネシアで再訪したくない場所です。

今回の文章は、個人的経験のみの偏った内容かと思います。

クレームはいただきません。こんな感情を持った人もいたんだということで、読み流してくださいね。。

ギリ・トラワンガン島

江田 直美

日本人会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年も皆さまとご家族にとって、更に素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

今回は、去年の10月下旬から家族で行ったギリ・トラワンガン島(GiliTorawangan)小旅行について、書きたいと思います。

ギリ・トラワンガン島は、バリ島東部にあるパダンバイ港(Padang Bai)から、高速船で2時間弱の距離にあります。

この島を含めた、ギリ・メノ島(Gili Meno)、ギリ・アイル島(Gili Air)のギリ三島は、バリ島からも手軽に足をのばせる離島として、ヨーロッパからの観光客に人気があるそうです。

実際に行ってみると、西洋人はもちろんのこと、韓国やインドからの観光客も多かったです。時期的なこともあるのか？、日本人はほとんど見かけませんでした。

ギリ・トラワンガン島で興味深かった事、情報、体験などを以下にまとめてみました。

1. 島内は、車、バイクは一切走っていません。島の交通手段は、自転車または、チドモ(cidomo)と呼ばれる馬車だけ。チドモは Tomohon で走っているベンディ(Bendi)に似ていますが、スーツケースなどの大きな荷物も乗せるので、荷台がしっかりとしていました。

2. 自転車で島を一周出来る。のんびり自転車で走っても2時間ほどでした。

島の至る所に、レンタサイクルの看板があり、一台 RP50,000~借りられます。ベビー用のベビーチェアも付けてもらえました。

3. シュノーケリング。(主人と娘)

ウミガメが見れるポイントもあり行ってみたが、出会えず。。でも、楽しかったようです。シュノーケル、ダイビング、サーフィン、パドルボードなどのアクティビティも充実しています。ローカル料理作りを体験出来る料理教室もあり、賑わっていましたよ。

4. ビーチ沿いで綺麗な海を眺めながらのランチタイム。ゆったり贅沢な時間でした。

ナイトマーケットで、笑顔が素敵な Ibu が作ったナシチャンプルで夕食。

値段も手軽で、ホッとのお味でした。(個人的にはピザよりナシチャンプルが口に合う。笑)

ナイトマーケットでは、一種類 RP7,000〜で野菜、チキンや魚料理などが並んだナシチャンプル屋さんやイカンバカルのお店で、食事をする観光客が意外と多かったのも印象的でした。

せっかくだからローカル料理を食べてみたい！という観光客も多いのかも知れませんね。

5. 夜のメインストリートは、バリ島のクタ(Kuta)地区の様な賑わいをみせていました。

Reggae bar からは、Bob Marley の音楽、迫力のある地元のミュージシャンの歌声に沢山の人が聴き入っていました。

6. 宗教について。バリ島はバリヒンズー教、ギリ・トラワンガン島はイスラム教で、大きなモスクがありました。

7. Kopi Bubuk の「555」をお土産に沢山購入しました。

レストランで飲んだコーヒーが美味しく、店員さんにブランドを聞いたら、親切に教えてくれました。Toko で 250 グラム、RP15,000 でした。お店の人によると、ローカル観光客に人気のコーヒーだそうです。

8.ホテルやレストランのオーナーも西洋人が多く、私たちが2泊したB&Bはフランス人女性が経営されていました。その隣のVillaも、オランダ人がオーナーでした。

滞在期間は3泊4日、もう少しのんびりと滞在してみたいなと思える島でした。

島のメインストリートがある賑やかな印象の南側と、アグン山を望める穏やかな印象の北側。

その時の気分で、全く違う過ごし方が出来る、雰囲気を楽しめるのも、この島の魅力かも知れません。

去年の11月から、何度か噴火を繰り返しているアグン山ですが、私たちが滞在していた時期は、観光客の間に不安な雰囲気もなく、定員150人乗りの高速船もほぼ満席状態でした。

サンセットタイムには真っ赤に染まったアグン山、本当に神々しく思わず手を合わせて拝んでしまいました。1日も早く、安心して、また沢山の観光客がバリ島やギリ三島に戻って来られる日がくるようにと願っています。



メナドを探しにマナドを訪ねて

国際交流基金日本語パートナーズ

東ジャワ派遣 井上浩一

1月に念願だったマナドの街を見ることができた。話では聞いていたが、わたしがいる東ジャワとは違い、肌が白い人をよく見かけ、ヒジャブをつけていない女性が多いのが目立った。また、ビールの広告看板もあったり、スーパーにはビールが並んでいたりとお酒が好きなわたしは連日夜が待ち遠しくなるほどだった。マナド初日は日本人会会長の今泉さんからのお誘いがあって、日本人会の新年会に参加することができた。あいにく、雨で周囲のきれいな景色は見られなかったが、会員の方が持ってきてくれた新鮮なマグロの刺し身やビールをたらふくいただいた。到着したその日が新年会だったのは本当に運がよかった。

マナド滞在中は早朝から街中を歩き回った。戦前のメナド中心地の地図を片手に、曲がり角や交差点を確認するように歩いた。マナドでしたかったことのひとつである。

探しものをするような歩き方は現地の人に道に迷っているように見えたのだろう。時々声をかけられた。海沿いは埋め立てられたので、当時の地図とは違っていたが、街の道路は大まか合っていた。かつてこの道を多くの日本人が歩いていたんだらうと想像しながら歩く。当時の人はどんな服装で歩いていたのだろう。わたしは甚平を着て歩いた。周囲の建物からは当時を想像することは難しい。道がまっすぐ伸びている場所や山が見える場所に来ると、立ち止まっては、目を閉じたり、視線を上を移動しながらメナドと言われた時代を思い浮かべていた。地形はほとんど変わることはない、当てもきつとこの景色だったんだらう。



インドネシア派遣が決まって、行きたい場所のひとつにあげていたマナド。縁あってわたしの手元に届いた本がわたしをマナドに向かわせた。

小坂清見著『わが青春のメナド』、市場には流通していない自費出版の本である。

その本がなぜわたしの手元にあるのかを少し触れておく。わたしは母が終戦前、朝鮮の仁川（現在の韓国インチョン市）で育ったことから、当時の仁川のことを調べ、後世に伝えていこうと「仁川（ジンセン）を想う会」というホームページを作っている。その関係で仁川に関係する資料や本が送られてくることがあった。『わが青春のメナド』はその中に入っていた本だ。他の本に紛れ込んで入ったのかもしれない。著者の小坂氏は京城（現在のソウル）生まれである。だが、わたしはこの本が偶々入っていたと思うことができなかった。

京城で銀行員をしていた小坂氏は南洋に行って働きたいという気持ちを抑えきれず、銀行を退職し「南洋貿易」に就職する。小坂氏がメナドに上陸したのは昭和 17 年 4 月 11 日。堀内豊秋大佐（当時中佐）の落下傘部隊が降りたってから 3 ヶ月後である。南洋行きを希望していた小坂氏は精力的に働き、仕事に没頭する毎日であったが、その年月はあまり長く続かなかった。19 年春以降はミナハサにも米軍機が来るようになり、8 月にはビトゥンが爆撃を受け、のちにメナドも空襲を受けた。メナドにあった軍政、経済などの主要機関はトンダノに活動場所を移すことを余儀なくされた。そして終戦を迎える。『わが青春のメナド』には小坂氏の目の前で起こった出来事が多く書かれていた。逃げ惑う住民、逃げられなかった住民。それは一般の人から見た戦争をそのまま伝えてくれた。空襲によって普段の生活の場が生死を分ける場所へと変わった。被害を受けたのは軍人ではなく一般住民であった。

『わが青春のメナド』には死刑判決を受け、刑を執行された方たちも出てくる。小坂氏とかかわりがあり、のちに BC 級戦犯とされた人たち、柳井市長、軍通訳の中野氏、山田兵曹、湯村大尉である。戦犯とされた人は軍人だけはでない。ごく普通の人々が戦犯とされたのだ。わたしが気になったのは通訳の中野氏である。中野氏の下の名前は『わが青春のメナド』には出てこなかったが、おそらく正という名前であろう。

中野氏は元南洋貿易の社員で通訳として海軍に雇われていた。南洋貿易には中野姓

が2人いて、背の高さから中野ペンデ（低い）、中野パンジャン（高い）と呼ばれていたと小坂氏は書いている。死刑判決を受けた中野氏はペンデと呼ばれていた。『ミナハサ事情-南洋庁長官々房調査課編』には昭和13年8月調べのメナド在留邦人の名簿があり、そこには中野正氏の名前も出ている。中野正氏はどんな人物だったのか。小坂氏は中野ペンデ氏とは同年代と書いてあることから、正氏がペンデと呼ばれていた人物だった場合、正氏は終戦時には30歳ぐらいである。昭和22年3月17日刑執行。結婚もしていただろうし、子どももいたかもしれない。ごく普通の人だっただろう。終戦までは。

『タルシウス第33号』に長崎さんが書いた「北スラウェシとBC級戦犯」が出ている。わたしはこれをマナドに行く前、繰り返し読んだ。それによると処刑場があった場所には現在図書館や学校が建っているとある。日本人会の中村さんからは処刑場は図書館と高校の間ぐらいにあったと聞いた。わたしが以前調べた情報では、処刑場跡には高校が建っているとあった。それらの情報から処刑場があった場所はこの一帯ということで間違いないだろう。

わたしはまず図書館に行くことにした。そして職員に許可をもらって、高校側の一角で線香を焚き、手を合わせた。マナド訪問の第一目的は慰霊であった。マナドに行く前、この場所からいちばん近いマレオサンホテルを予約した。より近くで何かを感じたかったからである。

実はこんなことがあった。

マナドに到着してすぐは街の散策のためサヒドカワヌアホテルに宿をとった。そこからマレオサンホテルに移った日、ホテルの部屋で唱歌「ふるさと」を聴いた。わたしはこの曲を慰霊の際に流そうと考えていたので、それをチェックするためであった。

前奏から歌が始まってすぐのときである。部屋のドアがガチャと音を立てて開いた。

日常ではドキッとする瞬間であるが、この時は冷静に「ああ、人が入ってきたな」と、そのままふるさとを聴いた。部屋には荷物を運んでくれたマナド国立大学のヨス・ナランデ先生もいっしょにいた。曲を聴いたあと、ヨス先生に「さっき誰が入っ

てきましたよね」と聞いてみた。ヨス先生も「そうだよね。ドアを開けて入ってきたよね」と同じ気配を感じ取っていた。

マレオサンホテル周辺も何度も歩いてみた。この辺りも当時多くの日本人が住んでいた場所である。処刑場跡周辺を歩いているとき、あるホテルが目に入ってきた。処刑場があった場所にある高校 (SMKN3MANADO) 内にあるエドテルというホテルだ。

エドテルとは職業高校の実習のためのホテルで、education と hotel が合わさったものである。ここは処刑場があったと思われる場所から目と鼻の先ぐらいのところにある。ひょっとすれば処刑場跡に建っているのかもしれない。そんな近い場所に泊まれるのならそこに泊まり、感じるものがあれば、自然に感じてみたい。素直にそう思ったのだ。

宿泊できるか、聞いてみようと思いつき中に入ろうとしたが閉まっていた。学校のことは学校に。ちょうどその日、マナドに派遣されている日本語パートナーズの人たちと会うことになっていた。そのうちの一人、他の職業高校に派遣されている大内さんに宿泊が可能かどうか調べてもらった。結果は難しいとの返事。ならば直接お願いしようと思いつき学校に行ってみた。学校では担当者が英語で応対してくれた。今年はまだ整備が十分でなく、実習をしていないので宿泊できるのは来年からということだった。

翌朝再び高校に行った。この日は校内で慰霊をさせてもらおうと、伝えたいことは事前にノートにインドネシア語で書いておいた。受付で校長先生との面会を願いすると、通された校長室にいたのは前日にエドテル宿泊のことで話をした人だった。校長先生（写真右側の女性）はわたしがなぜエドテルに泊まりたかったのかを理解してくれ、校内の図書館側の一角で線香を焚き、手を合わせることも許可してくれた。



今回のマナド訪問で計画していたことがほとんど実行できたのは、中村さんや長崎さんのご協力が大きく、お二人にはとても感謝している。特に中村さんはマナド訪問前からメールで何度もわたしの質問に答えてくれた。当初は12月末に訪問を考えていたが、それを1月に変更したのも中村さんのメールからである。12月末にマナドに行っていたら、順調に旅行はできなかつただろう。

残念だったのは参加させてもらった日本人会の新年会で、みなさん全員とお話することができなかつたことと日本海軍の慰霊碑があるビトゥンに行けなかつたことだ。

長崎さんからも時間があつたらビトゥンにも来てくださいとお誘いを受けていた。

帰りの機上で眼下にミナハサを見ながら、時間は作らないといけなかつたと少し悔やんだ。だが、それ以上に晴々とした気持ちと達成感がわたしをより高く押し上げ、ミナハサから離れていった。

次回マナド訪問の機会があれば、みなさんともう一度お会いしてお話したいと思っています。それがいつになるかわかりませんが、それまでみなさんどうか元気でお過ごしください。ご活躍を祈っております。

南洋真珠養殖 その6 (タリセ編)

今泉 宏

真珠養殖人生の最後をここで飾りたいと思いこの地タリセ島へ来た。正式には Pulau Talisei と記すのだがこの島の人達はプロウ・タリセと呼ぶ。この島には村が4つありタリセ村とガンガ島の対岸（スラウェシ本島に一番近い場所）にあるタンブン村がメインである。会社はこの2村の間地点にありタリセ村の管轄になっている。タリセ村とタンブン村にはそれぞれ小学校があり、中学校はタンブン村にある。実は高校もタンブン村にあるが先生がいないことが多く高校生はいつも遊んでいるらしい。毎朝6時ごろになると会社の裏手にあるタリセ村とタンブン村をつなぐ小道が賑やかになるが中学校へ向かう子供たちの声である。さすがに離島の子供たちは野性的でとても元気があり毎朝のように女子をからかう男子とそれを追いかける女子の騒々しい声が聞こえてくる。そして驚くのはその人数だ。この小さな村にこれだけの子供がいるのかとびっくりする。帰り道には海岸沿いを何か貝か蟹か魚か食料になるものでも探しながらそして遊びながらワイワイと帰っていく。こうして彼らは自然を学びながら成長していくのだ。

ここへ赴任するのが決まった時家族同伴でと本気で考えたが妻の猛反対により断念した。ま、医療や子供の学校のことを考えたら当然の反応だと思う。ただ学校に関してはマナドの学校がよいかと言ったらまったくダメダメで、それなら学校には期待せず自然を学ばせた方がよいのではないかと私は今でも思っている。では、医療はどうなのか？はっきり言うとマナドの医療はまったく信用できない。それならばきれいな空気のタリセで健康的な生活をして病気にならない体を作る方がよいのかもしれない。ただ、さすがに村で村人と一緒に生活するのは無理かもしれない。電気が夜しか点かないから冷蔵庫は使えない。となると肉や魚が保存できないから栄養が偏り病気にかかりやすくなる。しかし会社内に住めば電気は24時間供給されるし船も定期的に本島へ行くので買い物も十分できる。ほんとに困ることは何もない。病院にした

って2時間あればマナドまで行けるのだ。そして暇さえあればモールへ行って浪費するということも少なくなりお金もたまる。と、いいことづくしだ。

これはここだけの話でインドネシア語訳をされないことを信じて書いてしまうが老後はこの会社の敷地内に小さな家を建ててもらってお小遣い程度の給料をもらって気ままに過ごせたらいいと本気で思っている。この夢叶うかな？

ミナハサ事情について

「タルシウス」編集部

昭和 14 年（1939）といえは今から 79 年前、支那事変がはじまってすでに 2 年経過し、日本を取り巻く国際情勢はかなりキナ臭くなってきた時期です。昭和 16 年 12 月の真珠湾攻撃とそれに続くメナド攻略まであと 2 年余、植民地蘭領東印度（以下蘭印）の支配者であるオランダ当局も、支那大陸での日本の動きに神経を尖らせつつありましたが、北セレベス地方（以下、ミナハサ地方）では民間日本人による水産・農林・商業などの事業が活発に展開されていました。

ミナハサ地方は当時、蘭領東印度とよばれたオランダ植民地の一角で、バタビア（現ジャカルタ）の蘭印政庁の統治下にありました。ミナハサ地方の北東方向にはマルク海を隔ててハルマヘラ島、モロタイ島があります。その向こう側はミクロネシアとよばれる、多くの島々が散在する広大な海域で、当時は日本の委任統治領でした。また、ミナハサ半島の北方はフィリピン群島で当時はアメリカの植民地です。セレベス島の西方は大島ボルネオ（現カリマンタン島）で、ここもオランダとイギリスが分け合っで支配する植民地です。

ミクロネシアを統治する日本は、パラオ群島コロールに南洋庁を構えて南進政策を進めていました。パラオ島という南洋開拓の中心地から見れば、アメリカが統治するフィリピン群島も、オランダのセレベス島他マルク諸島も、いわば「お隣の島」という感じでした。人々は支配境界線を気にすることなく気軽に出入りしていた様子です。（もちろんそれなりの手続きは必要でしたが）

たとえば、パラオのカツオ船で働いている若い漁師が、ロコミなどで北セレベス・メナドの景気がよさそうだと耳にして、「それなら俺も行ってみようか」と渡って来るのもいたでしょう。すでにビトゥンのカツオ船で働いている知人の呼び寄せ、というケースもあったことでしょう。

漁師だけでなく、船大工、歯医者さんや雑貨商など、メナドで一旗揚げたいという

夢をもって多くの日本人が北セレベス・ミナハサ地方に入ってきました。昭和 14 年時点で水産・農林・商業部門にかなりの日本人がミナハサ地方に滞在し、それぞれの分野で実績もあげていたわけですが、その実態を把握したいと考えたのか、南洋庁は調査を実施しました。(当時すでにメナドに日本国領事館あり。)

その報告書が「ミナハサ事情」と題されたこの調査報告書で、60 ページに及びます。今号と次号でその内容をご紹介しますと思いますが、調査項目が広範におよんで、各項目をみると上滑りのような深みのない記述もみえます。「地勢」や「気象」の項目はあまりにも粗雑な上に、気温や湿度など細かい数字の羅列もあるのでここでは省きます。

物足りない部分もありますが、それでもおよそ 80 年前、太平洋戦争が始まる直前のミナハサ地方の様相がうかがえる貴重な史料であることに間違いありません。

ということで、今回はこの報告書を会員の皆様に紹介します。

(報告書の漢字や文章などは旧字体旧文体で現代人には非常に読みづらいので適当に改めました。また、「土人」とか「支那人」など、当時は悪意もなく普通に使用されていた用語もここでそのまま使うのは憚られるので、「現地住民」「華人」と改めました。)

ミナハサ事情

(昭和 14 年 8 月 南洋庁長官官房調査室)

1. 位置・面積および人口 (省略)
2. 地勢 (省略)
3. 気象 (省略)
4. 住民
5. 統治
6. 宗教・教育
7. 衛生
8. 交通

- 9. 産業
 - 10. 在留邦人および拓殖事業の現況
 - 11. 地誌
- (* 今号は 9.産業まで。 10, 11 は次号で)

では第 3 項の「気象」から紹介いたします。

3. 気象

ミナハサの海岸地帯は熱帯気候で暑熱強く、海拔 1,000m の高地においては、年間の平均気温が 73 度（摂氏 22 度）程度である。

雨期は大体 10 月にはじまり翌年 6, 7 月に終わる。7 月の初旬あるいは下旬より 9 月あるいは 10 月の終わりまで乾燥期である。

4. 住民

ミナハサの住民は前述のとおり 379,753 人と称せられ、そのうち大部分を占めるのは現地住民である。それ以外の外来人は日本人 372 人、欧州人 2,449 人、華人 10,715 人、その他東洋外国人 1,011 人である。

オランダ人が領有国民（支配国国民）として政治、社会、経済的に有力な地位にあることはもちろんである。

支那事変以後、オランダ人の対日感情が極めて悪化し、極度の恐日病に侵され、最近、急に防空演習も挙行され、小学校その他の重要施設には塹壕あるいは地下室を設け、空襲に対する防衛設備および防空思想の涵養を行いつつあるという。聞くところによれば、最近トンダノ湖畔のカカスに飛行場を新設し、あるいはトンダノのガソリンスタンドのタンクを満たし、また、帰休兵を動員してメナド市に兵員 200 名を増員したということである。以上の風説よりして、オランダ人の対日感情の一端も察知されるであろう。

それ以外において最も注目すべきは宗教である。華人は概して仏教徒であり、アラ

ブ人はイスラム教徒に属する。

今回の支那事変によって蘭印における華人の日貨排斥その他の排日的な行為は、当州の華人の勢力が大きいこともあって相当に猛烈をきわめている。

現地住民（ミナハサ人）は現在においてはほとんどキリスト教に帰依し、教育も比較的普及し、開化の程度においては蘭領東印度住民の中ではもっとも進んでいる。オランダ人に反して、現地住民はほとんど親日の態度を持ち、日本人に好感をもっている。これは一面、蘭印政府の苛斂誅求に対する反感からきたものであろう。

5. 統治

イ. ミナハサラート

ミナハサ分州は唯一の蘭印政府直轄地である。当州のなかにはメナド郡、トンダノ郡、アムラン郡の三郡あり、これを合わせてミナハサラート（自治圏体）を構成している。

しかし自治領と称しても、単に蘭印政府に対してある程度の独立性を有するという程度で、近代的民主主義思想に基づく自治制度ではない。

ミナハサ議会においては、ミナハサ副理事官（副知事相当？）が議長である。

ロ. 裁判

裁判は「証拠裁判」である。証拠のない場合はいかに理屈が整然としていても敗訴する。裁判を有利に導くためには、かなりの証人を得ることが必要である。

裁判をメナド市以外で行う場合は、コントロール（判事？）が日を定めて出張する、いわゆる巡回裁判で、陪審制度を採用しておりしかも即決裁判である。

八. 宗教・教育

宗教はキリスト教であるが、新教（プロテスタント）旧教（カトリック）にわかれ、いずれもしのぎを削って布教に従事している。

各部落には一つ、またはそれ以上の教会が必ず設立されている。冠婚葬祭はいずれもキリスト教によって執り行われる。しかし、ケマの住民のみはイスラム教徒である。イスラム教徒はいずれも団結力が強く、華人につぐ実力をもつ。最近、経済的実力よ

りも

政治的進出を企画して、「アジア人のアジア」を標榜し、彼ら自身による自治をかんがえている。

① ミナハサ州は著しく文化が進み、教育も普及している。当州の小学校は次の四種がある。

- (1) 7年制オランダ官立学校
- (2) 7年制私立オランダ語学校
- (3) 3年制官立小学校（マレー語）
- (4) 3年制私立小学校

(1) (2) はオランダ語を用いて教育している。(3) は主な街に 17 か所、(4) は各村立、キリスト教系あわせて 175 校ある。

② . 師範学校

入学資格は 5 か年 (?) のマレー語小学校を卒業した者と定められている。授業料は 1 か月 5 ギルダー、この中に食費およびノート、ペン、鉛筆、インキなど学用品一切を含む。

課程は男女共通、科目は教授法、オランダ語、博物、音符、建築、化学、家政学など。修業年限は 4 年。

卒業生は更に資格試験を受け、合格した者は 2, 3 年教員をつとめたあと校長となる資格ができる。

③ 神学校

入学資格は 5 年または 7 年の小学校を卒業した者と定められ、修業年限は 9 か年または 10 か年である。卒業生は牧師となり、小学校の先生以上の権威をもって尊敬される。

④ 中学校

入学資格 ① ミッションスクールの卒業生は無試験。②5 か年の小学校卒業生。
③KVIS 官立学校卒業生。授業料、食費、学用品など合わせて月に 25 ギルダを徴収。

⑤ 工業学校

徒弟学校に近いものである。入学資格は 3 か年のマレー語小学校終了程度。授業料は食費などあわせて 15 ギルダ50 セント。修業年限 3 か年。

⑥ 農業学校

入学資格、修業年限など工業学校と同じ。

ト. 高等学校

当地方に高等教育の機関はなく、中学を卒業して高等学校に進みたい者はバタビア（現ジャカルタ）の高等の諸学校に進むしかない。

7 衛生

ミナハサ地方は赤道直下の熱帯圏内にあるにもかかわらず、気候はきわめて快適にして温帯に慣れた者（例えば日本人）もほとんど暑さで苦痛を感じることはない。土質は石灰質または砂質のところが多いため水質も良好である。

他の蘭印諸島に比べて風土病も少なく、蘭印東印度中随一の健康地と称されている。

病院はメナドに官立病院 1、現地人医師（医院？）2 名である。トモホンにプレ手スタント系、カトリック系の病院があって、医療を布教の一手段としている。ソンドルにはプロテスタント系の病院があり、トンダノには現地人医師がいる。プロテスタント系の病院は比較的親切で、設備も整い、費用は極めて安い。

病院として特筆すべきは、ノーガン村のサナトリウムである。このサナトリウムは、オランダの統治下になって 250 年の記念に、オランダ女王からの御下賜金で設立されたもので、レントゲンなども最新式のものである。

8. 交通

陸路の交通は不完全にして、現在においてもセレベス島全体に鉄道線路は敷設されていない。したがって陸上の交通は自動車に頼るしかない。

ミナハサ地方においては自動車道路の開設は統治当局が最も重視する政策であるので、将来相当に発達する見込みがある。道路開設には多くの現地人労務者を使用している。

旅行者の宿泊施設としては、メナドに欧州人、華人、日本人のホテルがそれぞれ一軒ずつある。なお、各地にはパサングラハンと称する間接宿舎があり、欧州人および欧州人对等国民に対しては実費を徴収して宿泊させている。ゆえに、宿泊所に関しては大きな不便はない。

海上交通は、沿岸航路にあたるものはK P M（オランダ王立汽船）と現地人の小舟がある。

外国航路にあたるものは、K P Mのほか、ジャバ・チャイナ・ジャパン、日本郵船および南洋海運などがある。

現時点の日本関連航路は

イ ジャバ・チャイナライン・・・神戸・メナド直行他2航路

ロ 日本郵船南洋航路・・・・・・パラオ、ダバオ、タワオで神戸・メナド間

ハ 南洋海運株式会社・・・・・・パラオ経由でメナドに月1回寄港

現地住民の小舟はこの地方でプラウと称する「くりぬき舟」である。このプラウおよび帆を用いる当地伝統の舟航は、昔はそれなりの発展をみたが K.P.M.の大型汽船が当地の沿岸まで航路網をひろげたことにより、現在はほとんど重要性を失った。

K.P.M.の蘭印領内航路は、メナドを起点として、メナドージャワ航路2週に1回、メナドーマカッサル航路2週1回、メナドーサンギ・タラウド航路付き1回と就航している。

* K.P.M.の概況 : 設立 1888 年、資本金 50,000,000 ギルダ、所有船 142 隻、

* ジャワ・チャイナ・ジャパンラインの運賃 : 当社の乗客運賃表は3種あって（経路の違いによる）、そのうちのメナドに寄港するルートは次の通りである。

(等級は一等 A, B, C, 二等、特別三等、三等の 6 等級がある)

日本の始発港である神戸からメナドまで、一等 A は 175 ギルダー、最下位の三等は 57 ギルダーで、約 3 : 1 の割合になっている。

日本—パラオ—ジャワ線の寄港地

神戸発—門司—釜山—パラオ—メナド—マカッサル—スラバヤ—スマラン—バタビ
ア—パレンバン—パダン

日本—台湾—ジャワ線

神戸—門司—釜山—基隆—高雄—香港—サンダカン・タワオ—バタビア—スマラン—
スラバヤ—マカッサル

9 産業

ミナハサ地方においては、大昔アルフル人の勢力が大きかった時代は狩猟生活を営んでおり、首狩りの蛮風も行われていた。この蛮風は比較的最近までおこなわれていた。しかしオランダの統治が始まり、キリスト教牧師による教化事業が進むにつれてこれらの蛮風も次第に衰え、また一般的教育も普及して、現代においてはむしろ(ミナハサ地方は)セレベス島中近代化が最も進んだ地域であるが、現地住民の農業知識の水準はまだ遅れている感がある。

イ 農業

当地方の農業(農産物)は大まかに言って、ヤシ、コーヒー、チョウジ、タマネギ、コメの 5 種に分けられる。近年は日本人の進出によって野菜類も栽培されるようになった。

農作物の分布状態から見て、海岸に近い低地帯はヤシが多く、水が豊富で地形がよく肥沃な地帯には水田がある。

高地地方はコメを主産物とし、次いでコーヒー、チョウジ、タバコ、タマネギなどを産する。

ロ 林業(省略)

八 水産業

漁業についてはこの地方は相当に発達している。特に近年、邦人漁夫がメナド付近に進出してかつお漁業に全力を注いだ結果、今やこの地方における魚類の供給を独占するほどの状況である。

現地住民の漁業については見るべきほどのものはなく。いずれも零細規模でカヌーを使用している。漁民はメナドとケマの付近に最も多い。漁具は一本釣り、網（引き網、刺し網など）で、漁獲物はカツオ、マグロ（少量）トビウオ、イワシ類、サヨリ、イカその他雑魚が多い。

現地住民の漁船はケマの付近に最も多く、30数隻ある。漁船には10～13人が乗り組む。これらの漁船はそれぞれ魚倉に餌魚を活かして出漁するが、そのほかに餌魚を持たない小型のカヌーに2～3人乗りこんで出漁する。小型のカヌーは大型カヌーと行動を共にし、常時そのそばについてカツオを漁獲し、漁獲の20%を親船に供出。この種の小型カヌーはきわめて多い。

(次号に続く)

編集後記

日本人会の皆様、あけましておめでとうございます。

1月13日（土）の新年会は久しぶりにマラヤンの海鮮レストランでおいしくすごすことができました。阿部さんからまぐろ刺身の差し入れもあって会も一段と盛り上がり、今年も幸先の良いスタートとなりました。

今回の新年会には海外協力基金から派遣された日本語の先生方6名が参加されました。6名のうちの一人（井上先生）は東部ジャワ配属ですが、たまたま個人的なメナド訪問が当会の新年会とタイミングが合って参加できたということでした。その後、任地に戻られた井上先生からは、本会報に寄稿をいただきました。ありがとうございます。

ブナケンの玲子さんから久しぶり寄稿が届きました。内容はインドネシアでは奇跡としか思えないラッキーな話です。文句なしに「今号の巻頭」ということになりました。

木谷さんが張り切ってくれました。木谷さんには数年前から原稿を催促し続けていましたが、やっと反応してくれました。溜まりに溜まった話は、まだ続きがたっぷりありそうです。

江田さんはバリに滞在中、とっていたらトモホンに帰っていました。バリ便りも一応今号で打ち切り、次号からはトモホン便りに替わります。江田さんはバリに行くときは3人で行ったはずですが、戻ってきたのは4人だそうです。おめでとうございます。

タルシウス常連の下村さん中村さん長崎さんは一休みです。次号でまたお願いします。まだ一度も寄稿されていない方もぜひ一筆おねがいします。

（長崎）

会員名簿

会報「タルシウス」電子版では不特定多数の方が閲覧するため、セキュリティ上の観点より会員名簿は非公開とすることとしました。

(2014年04月20日)

上記理由により会員名簿が非公開になりましたことをご了承ください。

- 会報タルシウス（製本版）には従来通り名簿は掲載されます。
- 各会員に対しましての個別の、または、尋ね人などのお問い合わせは、

直接日本人会へお問い合わせください。

該当会員に連絡後、会員より直接連絡するか該当会員の同意のもとで、

連絡先をお知らせすることといたします。